

事業概要書

事業名	釜石・大槌地域の若年層による海外へ向けた防災・伝承活動促進事業				
開始日	2022年2月1日	終了日	2023年7月31日	日数	181日
団体名	一般社団法人 walavie				
(カウンターパート)	岩手県立釜石高等学校、岩手県立大槌高等学校、アチェ津波博物館				
担当者名	細江 絵梨	事務局スタッフ人数	3人		

事業費総額(税込)	3,126,000円
CF事業枠	3,076,000円
その他資金	50,000円

事業目的	釜石・大槌地域の高校生を中心とする若年層による自発的な防災・伝承活動のサポートを通じ、地域の若者が主体となった持続可能な震災伝承・防災意識啓発活動を行い、当該地区全体の防災・減災の取組の底上げを図る。また、同じ津波被災地であるインドネシア・アチェ地域の若者と、防災・減災をテーマに、知見の共有や相互理解を深める交流を行うことで、未来へ多様性を包含した防災意識を育む。
事業全体の概要	<p>■一般社団法人 walavie とは</p> <p>釜石・大槌地域における防災ノウハウなど、人々の暮らしの営みから育まれた様々な文化習慣及び価値観が国及び地域を超えて共有され、その結果として多様性のある社会となることを目的とした活動を行うために2022年3月に設立された。設立時代表社員2名が設立前より地域の組織である(一社)根浜MINDや根浜親交会、釜石市と協働し、2004年スマトラ沖地震による大津波の被災地であるインドネシア・アチェとJICAパートナーシップ事業等を活用し防災ノウハウをシェアする活動を行っており、これらと連動しながら国や地域を超えた防災教育の普及及び啓発活動を開始している。</p> <p>■事業の背景</p> <p>釜石市では東日本大震災以前から学校による防災教育の推進が図られ、結果として、震災時には学校管理下における子どもの生存率は99.8%となった。この防災教育の特徴は、子どもたちが自発的に調べ・地域住民へヒアリングを行ったり防災に関する発信のプログラムを作成することであり、地域の大人たちの防災意識の向上にも寄与したと考えられている。震災から11年が経過し、風化が進む一方で日本のみならず世界で自然災害が多発し、防災・減災意識の向上が求められている。このような状況にある今、主体的に防災・減災活動に取り組む若者と大人たちが協働し、ともに発展させる必要があると考えている。</p>

■取り組むべき課題

前述のように、大震災から時間が経過することで一般市民の中でその風化が進み、防災意識の低下が危惧されることは世界共通であるが、東日本大震災の被災地である釜石・大槌地域では、若年層が主体的に防災・伝承に関する活動を推進できるよう教育環境が整備されている。釜石高校では文部科学省のスーパーサイエンスハイスクール（SSH※1）の指定を受けているため、「ゼミ活動」の時間が設けられ、生徒が「防災」をテーマに各人の興味のもと課題研究活動が展開されている。また大槌高校では、震災直後より生徒による主体的な活動として「復興研究会」が組織され、定点観測や語り部活動などを行っている。中でも復興していくまちの様子を定点観測し続けた「定点観測」の活動は新しい伝承のモデルになると評価され、2022年に「防災まちづくり大賞」を受賞（※2）した。これらの活動は後輩により継続されているだけでなく、「マイプロ」と呼ばれる探求授業により、釜石高校同様の課題研究活動が行われて相乗効果を生んでいる。

このような環境が整っているものの、両校共に学校内での活動が中心で、学校で学んだことを実践する場として地域外、特に国外への発信を行う機会は少ない。しかし学校の授業以外で高校生たちが自主的に取り組むことができる活動には限りがあるため、活動の場の提供や活動へのアドバイスなど、大人のサポートが必要不可欠である。またコロナウィルス感染拡大により、海外への研修等もすべて中止となり、防災・伝承活動の発信に加え国際性を養い高められるような機会が皆無となってしまった。オンラインによる交流が多少創出されるものの継続的ではなく、地元を客観視する力を養うなどの「学び」という点で難しさを感じている学校関係者が多い。

若年層の防災・震災伝承に関する活動の発表の場の欠如、特に国外に向けて発信する機会の減少という課題がある。

※1…高等学校等において、先進的な理数教育を実施するとともに、高大接続の在り方について大学との共同研究や、国際性を育むための取組を推進。また創造性、独創性を高める指導方法、教材の開発等の取組を実施（<https://www.jst.go.jp/cpse/ssh/>）する。

※2…<https://www.asahi.com/articles/ASQ4H6TCVQ3QULUC01S.html>

■期待される効果

以上の課題に対し取組を実施することで当該目的を達成するだけでなく、副次的効果として以下を想定する。

1. 大人世代や専門家への影響

震災前の釜石市の防災教育は、小中学生が地域住民へヒアリングを行うなどの主体的な連携を図った結果、地域住民の意識も向上した。震災から11年が経過した現在、特に日本の防災・減災における協議ではトピックが固定化されることが多いと

いう指摘もあり、若年層の多様で柔軟な発想による防災・伝承の発信により大人世代や専門家への影響を見込んでいる。

2. インドネシア・アチェ地域の若年層への影響

2004年のインド洋沖大津波で甚大な被害を受けたインドネシア・アチェ地域では、若年層の間で防災意識の格差が広がっている。そのような中、専門家や教師による指導ではなく、若年層同志の双方向の交流により意識が高まり、主体的な活動が生れることを見込んでいる。

■パートナー協働事業対象プログラム

ユンポーネット①国内で開催される国際会議での高校生による防災・伝承活動の実施サポート

2023年3月10日～12日に宮城県仙台市で開催される第3回世界防災フォーラム※3(以下WBF)へ参加し、釜石高校及び大槌高校の生徒が防災・伝承に関する発信を行う。

※3…2015年仙台市で開催された第3回国連防災世界会議で策定された仙台防災枠組みを推進する「場」を創出するために2017年より開催され、隔年で実施されている。コロナウィルス感染拡大の影響で2023年に第3回が開催される。今回のWBFでは、一般市民及び若年層を巻き込むことを重視している。

[期間] 2023年1月～2023年3月

※WBFの開催は3月10日～12日、仙台国際フォーラム

[場所] 岩手県釜石市・大槌町周辺地域、宮城県仙台市

[対象者] 釜石高校防災ゼミ有志、大槌高校復興研究会有志

[内容] WBFに以下のコンテンツで参加するにあたり以下の事業を行う。

①. 高校生の発表準備のサポート及び振り返り

以下のコンテンツで発表するための準備サポートを行う。コンテンツ発表そのものの準備の他、プレゼンの練習、両校の生徒たちのチームビルディング、WBF参加にあたっての目標設定、学びを深めるための振り返りなど、活動を総合的にバックアップする。

(1) ポスターセッション

- 防災グッズの開発研究（釜石高校）
- 災害時の避難行動のリサーチ（釜石高校）
- 被災体験の紙芝居作成（大槌高校）
- 震災直後からの定点観測（大槌高校）

(2) ミニプレゼンテーション

- 子ども向けの防災授業（釜石高校）

	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 被災体験の紙芝居（大槌高校） <p>(3) 特設展示</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 震災直後からの定点観測の写真展示 <p>(4) セッションの実施</p> <p>釜石高校・大槌高校の生徒の活動をパネルトーク形式で発表する。メインテーマ及びセッションの設計から高校生自身が計画する。</p> <p>(5) 振返りの実施</p> <p>WBF 参加後に振返りを行い、強化・改善要素を整理する。自身の活動に反映させる点や、また地域や文化慣習などバックグラウンドの違いによる「伝わり方・伝え方」などを整理する。</p> <p>②. 主催者側との調整及び広報業務</p> <p>WBF 主催である一般財団法人世界防災フォーラムに対し、参加に関する事務手続きをはじめ、最大限有意義な発信ができるよう調整を行う。上記②のコンテンツに関し、事前及び当日の広報に向けてチラシの作成、SNS 等での発信を主催側と協力しながら実施する。</p> <p><u>コンポーネント②インドネシア・アチェ地域の若年層との双方向性のある防災・伝承活動の機会創出</u></p> <p>インドネシア・アチェと行っている JICA パートナースhip事業（※4）と連動させ、釜石高校及び大槌高校の生徒がアチェの高校生・中学生とオンラインによる防災・伝承活動の機会を以下の通り創出する。</p> <p>[期間] 2023年4月～2023年7月</p> <p>[場所] 岩手県釜石市・大槌町地域、インドネシア国バンダ・アチェ市</p> <p>[内容] ①オンラインでの双方向的な勉強会の開催</p> <p>上記コンポーネント①の WBF 参加及び振り返りを経て改善された釜石高校・大槌高校の両生徒による活動をもとに、オンラインでバンダ・アチェ市の高校生・中学生と勉強会を行う。バンダ・アチェ市の高校と中学では、津波防災教育に関する教育に非常に格差があり、積極的に行われている高校とは双方向の学び合いを、防災教育が導入されていない中学生に対しては防災授業を行う。</p> <p>[期間] 2023年4月～7月</p> <p>[場所] オンライン</p> <p>（※4）…教師・行政職員等への技術指導を主たる活動として実施し、教師による防災授業の一環として釜石とアチェの中学生同志のオンライン授業を数回行っている。高校生同士の交流など、若年層同志の活動による意識啓発・活動促進等の内容は含まれていない。</p>
事業内容(事業種別（コンポーネント）ごと)	裨益者（誰が、何人）

<p>1. 国内で開催される国際会議での高校生による防災・伝承活動の実施サポート</p>	<p>釜石大槌の高校生：500名（両校の生徒と教職員人数） 地域の大人たち：1,000名（参加する生徒の家族、メディアを通して影響を与えた地域住民等） WBF 来場者：述べ 300名</p>
<p>2. インドネシア・アチェ地域の若年層同士の双方向性のある防災・伝承活動の機会創出</p>	<p>釜石大槌の高校生：500名（両校の生徒と教職員人数） 釜石大槌の地域住民・関係する専門家：1,000名（参加する生徒の家族、メディアを通して影響を与えた地域住民等） インドネシアの高校生・中学生：400名（参加する高校生、中学生の学校の生徒と教職員人数） インドネシアの地域住民・関係する専門家：2,000名（参加する生徒の家族、メディアを通して影響を与えた地域住民等）</p>